

避難時間推計シミュレーション(第2段階)の実施について

1 目 的

原子力発電所事故が発生した場合の避難時間をシミュレーション手法を用いて推計し、避難手段の最適な組み合わせや避難指示発出のタイミング、避難経路や交通規制のあり方などを検討する材料として、現実的な避難計画作成の参考とする。

2 概 要

第1段階では、高浜発電所から30km圏内の住民が30kmの同心円から離脱するまでの、シンプルかつベストの条件での傾向把握を行った。

第2段階では、夜間・悪天候等の条件も考慮し、渋滞発生箇所を予測するとともに、最終避難先までの避難に要する時間を推計する。

3 主な条件設定

条件設定項目	第1段階	第2段階
推計する時間	30km圏内の住民が避難を開始してから30km圏を離脱するまでの時間	UPZ圏内の住民が避難を開始してから避難先市町村までの移動に要する時間(市町内避難の場合はスクリーニング場所)
時間帯・天候等	平日・昼間・晴れ	第1段階の想定に、次のパターンを追加 ①土日 ②夜間 ③雨天 ④海水浴シーズンの平日/土日・昼間・晴れ
避難手段	自家用車・バス	自動車・バス・鉄道(JR福知山～京都間)
自家用車利用率	75%、50%、25%の3パターン	50%、25%の2パターン
バス利用台数	600台、100台の2パターン	・UPZ圏内とスクリーニング場所等の間を600台がピストン運行 ・スクリーニング場所等から避難先市町村までを500台で輸送 ・要配慮者については、UPZ圏内からスクリーニング場所を経由して避難先市町村まで250台で輸送
要配慮者の避難手段等	-	・病院入院患者(救急車等による搬送が必要な者を除く。)、施設入所者、在宅重度要配慮者は、避難先までバス又は自家用車で避難 ・在宅の重度以外の要配慮者は、一般避難者と同様に自家用車、バス、鉄道で避難
段階的避難	原発からの距離によって4段階でゾーンを設定し、①～④の順に段階的に避難 ① 0～5km ② 5～10km ③ 10～20km ④ 20～30km 前段階の避難が90%完了した時点で次のゾーンの避難を開始	原発からの距離によって4段階でゾーンを設定し、①～④の順に段階的に避難 ① 0～5km ② 5～10km ③ 10～20km ④ 20～30km ①は、避難指示から1時間後に避難を開始 ②は、①の避難から20時間後に避難指示に基づき避難を開始 ③、④は、前段階の避難が90%完了した時点で避難を開始
住民の独自避難	-	・PAZ(0～5km)圏内の住民は全て行政の指示どおり避難を実施 ・PAZ圏内に避難指示が出されると同時に、5～30km圏の住民が独自避難を開始 ・独自避難を行う住民の割合は発電所からの距離に応じ、37.5%～22.5%(福島第一原発事故において自主的な判断による避難を行った住民の割合(国会事故調)による)
スクリーニング場所・時間	-	・UPZ圏外において、インターチェンジや幹線道路に近接した場所で、鉄道駅から近く、駐車場、トイレ等の設備を有する施設をスクリーニング場所に設定 ・避難指示による全避難者についてスクリーニングを実施するものとし、避難推計時間にスクリーニングに要する時間を加算
他県からの避難	福井県から12,000人の流入を想定	福井県から12,000人の流入を想定